



PT. NNA INDONESIA

World Trade Centre 2, 19th Floor, Jl. Jenderal Sudirman Kav. 29 - 31,
Jakarta 12920 Indonesia Tel : 021-8665-7766 E-mail : sales_id@nna.asia

MDDI (P) 065/03/2026

最終処分場の飽和備え新拠点 DOWAの有害廃棄物処理（上）

環境・リサイクル事業を手がけるDOWAエコシステムは、インドネシア子会社2社を通じて、同国で唯一、有害廃棄物の最終処分場を運営する。首都ジャカルタ郊外の処分場では、医療廃棄物やポリ塩化ビフェニール（PCB）廃棄物といった他社では難しい処理も請け負う。1990年代初頭から稼働する処分場は今後10年以内に飽和すると見込まれ、新たな処分場の開設を計画している。



2021年に焼却処理施設を導入したことで、医療廃棄物などの処理も可能になった（PPLi提供）

DOWAエコシステムのインドネシア子会社プラサダ・パムナ・リンバ・インダストリ（PPLi）は、西ジャワ州ボゴール県で、インドネシア語で「B3」と呼ばれる有害廃棄物の最終処分事業を手がける。処分場の敷地面積は63ヘクタール。

インドネシアでは製造工程で排出された産業廃棄物をB3と呼び、B3の処理を巡るライセンスは「収集」「運搬」「中間処理」「リサイクル」「最終処分」の5つに分類される。PPLiは、DOWAエコシステムが東ジャワ州で操業する別の子会社とともに、国内でB3の最終処分事業認可を持つ唯一の企業で、5分類すべてのライセンスを所有する。

全国4カ所（西ジャワ州チビトゥン、リアウ諸島州バタム、東ジャワ州ラモンガン、東カリマンタン州バリクパパン）に展開する基地で集荷した廃棄物を、PPLiに輸送して処理する。

有害性、危険性、衛生的な問題がある廃棄物を、焼却や埋め立てなど多様な方法で、人や環境に影響が出ないよう無害化している。処理に当たり、顧客から排出された廃棄物のサンプルを入手、分析して処理方法を決定。

その後、実際に搬入された廃棄物の性状がサンプルと同じかどうかを確認した上で処理する。

設備拡充で処理方法も広がる

2021年からは焼却施設を導入して、医療廃棄物をはじめとする有害廃棄物の焼却処理も手がけ始めた。処理能力は1日当たり60トン。年間1万5,000～1万6,000トンを処理しており、現在はほぼフル稼働の状況だ。23年には、人体や環境への有害性が非常に高い「PCB廃棄物」の処理も開始した。インドネシア政府が国連工業開発機関（UNIDO）から寄贈された処理装置を、PPLiが政府から委託を受けて運営している。



インドネシア政府が国連工業開発機関（UNIDO）から寄贈されたPCBの処理装置を、PPLiが政府から委託を受けて運営している（同社提供）

環境や健康に悪影響を及ぼす、PCBなどの残留性有機汚染物質の廃絶・制限を定めた「ストックホルム条約」はインドネシア政府も批准している。PCBを28年までに処理完了する目標を掲げる法令はあるものの、

